

2019 年度 後期 教養教育		日英区分 : 日本語
クラウド入門		
■ ■ 時間割コード	■ ■ ナンバリング	■ ■ 科目分野
LB2341	1000LB1AS00075	
■ ■ 担当教員 (ローマ字表記)		
横山 重俊 [Shigetoshi Yokoyama]		
■ ■ 対象学生	■ ■ 対象年次	■ ■ 単位数
		2

■ ■ 授業の目的

クラウドサービスの利用方法を身につける。

■ ■ 授業の到達目標

クラウドサービスについてその成り立ちやその動作原理について語れる。
クラウドサービスを使ったアプリケーション構築について理解する。

■ ■ ディプロマポリシーとの関連 (評価の観点)

- A : 諸科学についての基礎的知識と理解 ○
 B : 論理的・創造的思考力 ◎
 C : コミュニケーション能力 ◎
 D : 社会的倫理観・国際性 ○
 (◎ : 特に重視する、○ : 重視する、△ : 評価対象、- : 評価対象としない)

■ ■ 授業概要

我々が利用する機会が増えて来ているクラウドサービスについてその成り立ちやその動作原理について学ぶ。グループでのクラウドサービスを使ったアプリケーションの構築と発表を通して、クラウドサービスの利用方法を身につける。コンピュータシステム、クラウド基盤の構築・運用の実務経験のある教員がそれらの経験をふまえた授業を展開する。

■ ■ 授業の形式 (授業方法)

演習形式

■ ■ 授業スケジュール

- 第1週 ガイダンス 演習環境設定
 第2週 Linux
 第3週 インターネット
 第4週 Webサービス
 第5週 クラウド
 第6週 クラウドコンピューティングの今後
 第7週 コンテナ技術
 第8週 コンテナ技術演習
 第9週 コンテナ技術を利用したアプリケーション開発演習(1)
 第10週 コンテナ技術を利用したアプリケーション開発演習(2)
 第11週 コンテナ技術を利用したアプリケーション開発演習(3)
 第12週 コンテナ技術を利用したアプリケーション開発演習(4)
 第13週 コンテナ技術を利用したアプリケーション開発演習(5)
 第14週 コンテナ技術を利用したアプリケーション開発演習(6)
 第15週 発表会

■ ■ 授業時間外学習情報

講義で配布した課題の演習 (小課題)

■ ■ 成績評価基準 (授業評価方法)

課題提出、最終報告

■ ■ 受講条件 (履修資格)

簡単なプログラム作成能力、インターネットを利用する能力を有すること。また、コンピュータシステムについての知識があることが望ましい。

■ ■ メッセージ

情報技術の流れをとらえ (過去→現在)
最先端に触れる (現在→未来)

■ ■ キーワード

クラウド, 仮想化, コンテナをキーワードに実務経験のある教員が講義を実施する。

■ ■ この授業の基礎となる科目

コンピュータネットワークとセキュリティ

■ ■ 次に履修が望まれる科目

■ ■ 関連授業科目

■ ■ 教科書

■ ■ 参考書

■ ■ 教科書・参考書に関する補足情報

■ ■ コース管理システム (Moodle) へのリンク

<https://mdl2.media.gunma-u.ac.jp/course/view.php?id=437>

2019 年度 後期 教養教育		日英区分 : 日本語
比較芸術論		
■ ■ 時間割コード	■ ■ ナンバリング	■ ■ 科目分野
LB2429	1000LB1HU00048	
■ ■ 担当教員 (ローマ字表記)		
菅生 千穂 [Sugo Chiho]		
■ ■ 対象学生	■ ■ 対象年次	■ ■ 単位数
		2

■ ■ 授業の目的

音楽、美術などの芸術は、それぞれの文化的歴史的背景の前に多様な姿を示しているが本講義では、音楽を中心にいくつかの作品を抽出し、美術分野からの視点を含む多様でユニークな観点で比較考察することで、それらの芸術的特質について分析を試みる。講義やディスカッション等を通して、学生の持つ芸術への興味が深まり、柔軟な視点や考え方を養成することを目的とする。

■ ■ 授業の到達目標

音楽や美術、芸術にこれまで以上の興味・関心を持つようになる。
既知・既成の概念にとらわれず、これまでと違った芸術や文化への視点を持つことができる。

■ ■ ディプロマポリシーとの関連 (評価の観点)

- A : 諸科学についての基礎的知識と理解 ○
B : 論理的・創造的思考力 ◎
C : コミュニケーション能力 ◎
D : 社会的倫理観・国際性 ○

■ ■ 授業概要

音楽、美術など古今東西の芸術は、それぞれの文化的歴史的背景の前に多様な姿を示している。楽曲や美術作品など、ひとつのものに注目するのみではなく、いくつかの窓口を通して視聴比較することで、それらの特徴や魅力が浮き彫りになる。本講義では、古今東西の芸術から音楽を中心にいくつかの作品を抽出し、独自の観点で比較考察することで、それらの芸術的特質について分析を試みる。なお、各講義においてリフレクション・ペーパーを提出し、学期中1-2回のレポートを課す。

(音楽演奏家としての実務経験のある音楽教員と、彫刻家・美術教育家としての実務経験のある美術教員による各分野からの視点を生かした比較芸術を試みる授業をおこなう)

■ ■ 授業の形式 (授業方法)

講義形式、グループでの対話・討論を含む

■ ■ 授業スケジュール

実務経験のある2名の教員による複数授業 (全回)

- ① ガイダンス～音楽と美術
- ② 音楽、美術、その今と昔
- ③ 20・21世紀と19世紀の音楽、美術
- ④ 東洋と西洋の音楽、美術
- ⑤ 北半球と南半球の音楽、美術の比較
- ⑥ 音楽における「数」の違いによる比較
- ⑦ 音楽における「拍子」などの違いによる比較
- ⑧ 音楽の「調性」の違いによる比較
- ⑨ 同曲異演の比較 (1)～楽器、演奏形態の違い
- ⑩ 同曲異演の比較 (2)～演奏者の違い
- ⑪ 同曲異演の比較 (3)～同一演奏者のなかにもみられる違い
- ⑫ 印象派における音楽、美術
- ⑬ 国策としての音楽、美術
- ⑭ 現代アートとしての音楽と美術
- ⑮ これからの音楽と美術

■ ■ 授業時間外学習情報

■ ■ 成績評価基準 (授業評価方法)

配分は、平常の授業への参加度、大小レポートを40点、30点、30点として行う。
成績評価は、S (90-100点)、A (80-89点)、B (70-79点)、C (60-69点)、D (59点以下)とし、S、A、B、Cを合格、Dを不合格とする

■ ■ 受講条件 (履修資格)

特になし

■ ■ メッセージ

■ ■ キーワード

芸術、音楽、美術、比較、楽曲、作品、様式、芸術史、実務経験

■ ■ この授業の基礎となる科目

■ ■ 次に履修が望まれる科目

■ ■ 関連授業科目

■ ■ 教科書

■ ■ 参考書

■ ■ 教科書・参考書に関する補足情報

■ ■ コース管理システム (Moodle) へのリンク

2019 年度 後期 教養教育		日英区分 : 日本語	
文化人類学			
■ ■ 時間割コード	■ ■ ナンバリング	■ ■ 科目分野	
LB2357	1000LB1SS00015		
■ ■ 担当教員 (ローマ字表記)			
志村 真幸 [Masaki Shimura]			
■ ■ 対象学生	■ ■ 対象年次	■ ■ 単位数	
		2	

■ ■ 授業の目的

日本や欧米諸国とは違う生き方をしているひとびとが、アジア、アフリカ、オセアニア、中南米などに大勢いることを理解し、さらにそこから自分たち自身の思考や生活を客観的に説明できるようになることをめざす。

■ ■ 授業の到達目標

自分とはまったく異なった価値観を、許容・理解できるようになる。

■ ■ ディプロマポリシーとの関連 (評価の観点)

- A : 諸科学についての基礎的知識と理解 ○
 B : 論理的・創造的思考力 ◎
 C : コミュニケーション能力 ○
 D : 社会的倫理観・国際性 ◎
 ◎ : 特に重視する ○ : 重視する △ : 評価対象 - : 評価対象としない

■ ■ 授業概要

- ①文化人類学という学問の扱う対象と目的について、現代的な意義をふまえた上で講義する。
 ②19世紀における人類学の発生から、社会進化論、機能主義、文化相対主義へと至る歴史を概説する。
 ③本講義では、とくに西欧世界と他地域 (アジア、アフリカ、オセアニア等) の関係に重点を置く。
 ④最終的には、グローバル化する現代社会における文化の問題を受講者に理解してもらおうことを目指す。
 博物館での展示企画・学生/市民向け実習の実務経験のある教員が、その実務経験を生かして、フィールドワークの授業を行なう。

■ ■ 授業の形式 (授業方法)

原則として、講義形式で行なう。
 そのほか数回のグループ活動 (フィールド学習) を予定している。

■ ■ 授業スケジュール

- 第1回 文化人類学とは何か
 第2回 文化人類学の方法
 第3回 食
 第4回 衣
 第5回 住まいと家族
 第6回 民族と心理
 第6回 科学・技術の人類学
 第7回 医療人類学
 第8回 宗教と動物と魂
 第9回 環境と公害
 第10回 スポーツとあそび
 第11回 フィールドワークとは何か
 第12回 模擬フィールドワーク
 第13回 フィールドワーク実践の報告
 第14回 現代社会における文化人類学の役割
 第15回 文化人類学のこれから

■ ■ 授業時間外学習情報

授業内で示す参考書やサイトなどによる予習・復習が望ましい。
 また、数回の時間外での実習を課す。

■ ■ 成績評価基準 (授業評価方法)

- ・授業内提出物 (感想・質問、フィールドワークの報告など) : 50%
 ・レポート : 50%

■ ■ 受講条件 (履修資格)

特になし。

■ ■ メッセージ

文化人類学という学問を通して、自分たちとは異なる文化・生活・習慣・考え方を一つひとつに対して、理解を深めていってほしいと思います。
 なお、受講に際しては私語、携帯電話操作等、他人の迷惑となる行為を禁じます。

■ ■ キーワード

フィールドワーク、文化相対主義、生と死、実務経験

■ ■ この授業の基礎となる科目

■ ■ 次に履修が望まれる科目

■ ■ 関連授業科目

■ ■ 教科書

■ ■ 参考書

備考	授業内に指示する。
----	-----------

■ ■ 教科書・参考書に関する補足情報

■ ■ コース管理システム (Moodle) へのリンク

2019年度 前期 教養教育		日英区分：日本語	
人間環境論			
■ ■ 時間割コード	■ ■ ナンバリング	■ ■ 科目分野	
LB1204	1000LB1NS00010		
■ ■ 担当教員（ローマ字表記）			
西村 尚之 [Nishimura Naoyuki]			
■ ■ 対象学生	■ ■ 対象年次	■ ■ 単位数	
		2	

■ ■ 授業の目的

本講義では人間環境と密接に関係のある森林についての知識を学び、特に森林の成り立ちや変化について理解を深め、より豊かで安全な人間環境を形成するために森林の保全が重要であるという認識を養うことを目標とする。その結果、森林という生物集団に関する基礎的な知識と森林に及ぼす人間のインパクトについて理解し、持続的な人間環境を保全するための意識を向上させることができるようになる。

■ ■ 授業の到達目標

気候と森林植生との関連性や森林の生態的特徴について説明できる。
 森林の多面的な機能と生態系サービスについて具体的に説明できる。
 適正で快適な人間環境を形成するために、森林生態系保全が必要であることを具体的に関連づけることができる。

■ ■ ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

A：諸科学についての基礎的知識と理解 ○
 B：論理的・創造的思考力 ○
 C：コミュニケーション能力 -
 D：社会的倫理観・国際性 △
 （○：特に重視する ○：重視する △：評価対象 -：評価対象としない）

■ ■ 授業概要

自然界の植物は、何らかの形で集団を成して生育している。これを植生といい、それは気候や地域や微細な環境により様々である。また、私たちの周りには樹々や森は自然景観の重要な構成要素のひとつである。古くからこれらの樹々や森は人の営みと密接に結びついてきた。そこで、本講義では、日本及び世界の森林植生と、さらに、森林生態系の構造と機能について概説し、さまざまな森林タイプにおける樹木群集の動態現象から森林群集維持機構について学習し、さらに、植物生態学的な視点から、日本の森林景観と樹木の文化について解説から森林生態学が人間と自然の共生のためのアプローチとして役立つことを論及する。

なお、本講義は環境アセスメント・環境政策・農林業普及教育の実務経験のある教員が、その実務経験を活かして、生物環境保全の授業を行う。

■ ■ 授業の形式（授業方法）

通常の講義形式であるが、生物現象について理解するためには視覚的な教材も必要である。そのため、見学、スライドやビデオなども活用する。

■ ■ 授業スケジュール

- 第1回 履修ガイダンスと講義内容
- 第2回 環境と生態学
- 第3回 地球と森林
- 第4回 植物、特に森林樹木の役割
- 第5回 世界の気候と森林植生の特徴
- 第6回 環境要因と森林植生の成立条件
- 第7回 代表的な日本の森林タイプの特徴（亜寒帯林、温帯林、暖帯林）
- 第8回 森林の種組成や構造の特徴
- 第9回 生態遷移と森林の動態現象(1)
- 第10回 生態遷移と森林の動態現象(2)
- 第11回 森林生態系の機能と生態系サービス
- 第12回 森林の歴史的な変化と人間との関わり
- 第13回 森林生態系における植物と動物との相互作用
- 第14回 個体群成長と資源をめぐる競争、種共存
- 第15回 生物群集の種多様性と遺伝的多様性

■ ■ 授業時間外学習情報

指定した教科書の予習復習

■ ■ 成績評価基準（授業評価方法）

講義中に行う課題（30%）、学期末の筆記試験（70%）により評価する。
 「気候と森林植生との関連性や森林の生態的特徴」や「森林の多面的な機能と生態系サービス」による理解度より、基準となる評価を行い、「森林生態系保全の必要」の論述度とあわせて、総合的な成績のレベルを判定する。

■ ■ 受講条件（履修資格）

高等学校レベルの生物学の基礎知識があること（できるだけ旧課程生物Iまたは新課程生物基礎を履修していることが望ましい）。

■ ■ メッセージ

出席回数が全講義（予定15回）の3分の2以上の場合に限り筆記試験の受験を認める。特別な理由がなく、個人的都合により第1回のガイダンスを受講しないものには履修を認めない場合がある。また、出席や課題などにおいて規律違反をした学生には絶対に履修を認めない。

■ ■ キーワード

生態学、生物群集、植生、森林科学、森林生態系、里山と環境保全、生物多様性、環境保全、実務経験

■ ■ この授業の基礎となる科目

生態系と環境, 自然環境論, 生物環境論

■ ■ 次に履修が望まれる科目

教養教育科目なので、特に指定しない。

■ ■ 関連授業科目

本講義は、社会情報学部専門科目を開放した教養教育科目である。生物学の知識が十分でない学生は「生態系と環境」を修得後に履修してください。なお、社会情報学部1・2年生は、学部専門科目となるので、履修できません。

■ ■ 教科書

教科書1	ISBN	9784254470253				
	書名	森林環境科学				
	著者名	只木良也 著	出版社	朝倉書店	出版年	1996
	備考	必ず購入すること				

■ ■ 参考書

参考書1	ISBN	9784320057869				
	書名	大学生のための生態学入門 = An Introduction to Ecology				
	著者名	西村尚之 著,原登志彦 監修,若土もえ 作画,	出版社	共立出版	出版年	2017
	備考					

■ ■ 教科書・参考書に関する補足情報

「森林環境科学」只木良也(朝倉書店)。定価3900円
講義内容により必要な参考資料を別途配布する。

■ ■ コース管理システム (Moodle) へのリンク

2019 年度 前期 教養教育		日英区分 : 日本語
生態系と環境		
■ ■ 時間割コード	■ ■ ナンバリング	■ ■ 科目分野
LB1263	1000LB1NS00026	
■ ■ 担当教員 (ローマ字表記)		
西村 尚之 [Nishimura Naoyuki]		
■ ■ 対象学生	■ ■ 対象年次	■ ■ 単位数
		2

■ ■ 授業の目的

現代の様々な環境問題、特に、生物との関わりが深い問題を理解するためには、生態学の知識が重要である。生態学は自然界における生物の生命活動をその生物群を取り巻く環境と関連させて学問する生物学の1分野である。そこで、本講義では、同種個体の集まりである個体群や異種個体群で形成された生物群集の特徴を理解し、これらの生物集団と環境との相互作用系である生態系に関する正しい認識から私たち人間の生存にかかわる自然界で起こる課題について説明できるようになることを目的とする

■ ■ 授業の到達目標

生物個体、個体群、群集とはどのようなものか具体的にイメージできる。
生物間相互作用と群集の成り立ちや機能について考察できる。
生態系と人間環境との関係を正しく理解できる。

■ ■ ディプロマポリシーとの関連 (評価の観点)

A : 諸科学についての基礎的知識と理解 ○
B : 論理的・創造的思考力 ○
C : コミュニケーション能力 -
D : 社会的倫理観・国際性 △
(○ : 特に重視する ○ : 重視する △ : 評価対象 - : 評価対象としない)

■ ■ 授業概要

自然界の生物は、何らかの形で集団を成して生育している。自然界における生物の存在は、個体、個体群、群集などといったさまざまなレベルで観察される。そのような生命現象には普遍的な性質が存在し、一方、生命体のすがただけでなく生命体の演ずる現象もまた多様である。これらを具体的にイメージして理解することは難しい。そこで、このような生物圏に関する知識を科学的に理解するために、生態学の基礎に立ち、実際の科学的なデータを取り上げながら、講義を行う。なお、本講義は環境アセスメント・環境政策・農林業普及教育の実務経験のある教員が、その実務経験を活かして、生物環境の授業を行う。

■ ■ 授業の形式 (授業方法)

通常の講義形式であるが、生物現象について理解するためには視覚的な教材も必要である。そのため、スライドやビデオなども活用する。

■ ■ 授業スケジュール

- 第1回 ガイダンス：履修上の注意と本講義の内容 (生物学の中の生態学)
- 第2回 生態系と自然環境：生命の共通性と地球上での生物の存在
- 第3回 生物種の分類と種数：地球上に存在する生物種数と進化
- 第4回 生物集団の特徴：生物と環境要因、および生物個体群の特徴
- 第5回 生態系の成り立ち1：生物群集と生態系の安定性
- 第6回 生態系の成り立ち2：生態系における物質生産の役割
- 第7回 生態系の成り立ち3：生態系における物質循環の役割
- 第8回 個体群の成長過程：生物増殖 (出生と死亡) のモデル (指数モデルとロジスティックモデル)
- 第9回 生物間の相互作用：種間の競争排除の原理とニッチ (生態的地位) とすみわけ
- 第10回 生物進化と生存戦略：自然選択と様々な生活史戦略
- 第11回 世界のバイオーム (生物群系)：生物集団の地理的分布と地球上の様々な生態系
- 第12回 日本の植生：日本の森林生態系の成立条件とその特徴
- 第13回 植生の遷移と森林の維持機構：生態系の変化と植物群集の移り変わりの仕組み
- 第14回 生物多様性と生態系：生物多様性とは (種多様性の指標と生態系の機能・サービス)
- 第15回 まとめ (生物圏と地球環境)：生態系保全に必要なことは何か？

■ ■ 授業時間外学習情報

指定された教科書の予習と復習

■ ■ 成績評価基準 (授業評価方法)

課題 (30%)、学期末の筆記試験 (70%) により評価する。
生物個体、個体群、群集を具体的に説明でき、かつ、生物間相互作用と群集の成り立ちや機能を理解して、生態系と人間環境との関係を考察できるレベルにより、総合的に判断して成績レベルを決定する。

■ ■ 受講条件 (履修資格)

生物に興味があること。

■ ■ メッセージ

出席回数が全講義 (15回) の3分の2以上の場合に限り筆記試験の受験を認める。特別な理由がなく、自己都合により第1回目ガイダンスかつ第2回目の講義を受講しないものには履修を認めない場合がある。出席や課題などにおいて規律違反をした学生には絶対に履修を認めない。

■ ■ キーワード

生態学、生物群集、個体群、生態系、生物圏、生物多様性、実務経験

■ ■ この授業の基礎となる科目

特になし

■ ■ 次に履修が望まれる科目

特になし

■ ■ 関連授業科目

特になし

■ ■ 教科書

教科書1	ISBN	9784320057869				
	書名	大学生のための生態学入門				
	著者名	原 登志彦(監修)・西村 尚之(著)	出版社	共立出版	出版年	2017
	備考	必ず購入すること				

■ ■ 参考書

■ ■ 教科書・参考書に関する補足情報

■ ■ コース管理システム (Moodle) へのリンク

2019 年度 後期 教養教育		日英区分 : 日本語
知っておきたい肺とアレルギーの話		
■ ■ 時間割コード	■ ■ ナンバリング	■ ■ 科目分野
LB2205	1000LB1HS00018	
■ ■ 担当教員 (ローマ字表記)		
久田 剛志 [Hisada Takeshi]		
■ ■ 対象学生	■ ■ 対象年次	■ ■ 単位数
		2

■ ■ 授業の目的

肺は、酸素を取り込む臓器です。常に外界（周りの空気）と触れ合っているため、多くの病気がおこります。アレルギーを含めた呼吸器の疾患について、医療関係者のみならず、皆が知っておきたい肺とアレルギーの知識についてやさしく解説します。呼吸器を中心として、病気の成り立ちや予防法、治療法の基礎を理解し、今後の生活に役に立つ基本的な知識を身に付けることを目的とします。

■ ■ 授業の到達目標

教養教育の科目ですので、専門知識がなくても理解できるレベルです。

以下を到達目標とします。

基本的な呼吸の仕組み、肺の働きについて説明できる。

代表的な呼吸器疾患の成り立ちを説明できる。

呼吸器疾患やアレルギー疾患の予防法や治療法の基本について説明できる。

■ ■ ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

- A：諸科学についての基礎的知識と理解 ○
 B：論理的・創造的思考力 ○
 C：コミュニケーション能力 -
 D：社会的倫理観・国際性 -

この科目を受講することによって、人体の巧妙な仕組みと各種疾患が発症するメカニズムを理解することはいろいろな学部専門教育にも通じるところがある。また、自己の健康管理にも役立つものである。

■ ■ 授業概要

呼吸機能について、また喫煙の健康への影響、呼吸器疾患とアレルギー（肺癌、結核、肺炎、睡眠時無呼吸症候群、喘息、花粉症など）をやさしく、予防法なども含めて解説します。（呼吸器疾患、アレルギー疾患に対する専門医である教員が、その実務経験を活かして授業を行います。）

■ ■ 授業の形式（授業方法）

プリントを配布し、講義形式。

■ ■ 授業スケジュール

- 第1回 肺の働き、呼吸の役割
 第2回 タバコの影響—軽いタバコならいいのでしょうか？
 第3回 タバコ病=肺気腫を知り、あとで後悔しないようにしましょう
 第4回 肺がんを知り、予防に心がけましょう
 第5回 睡眠中に息がとまっていませんか？睡眠時無呼吸症候群
 第6回 結核、なぜマスクミで騒がれたのでしょうか？
 第7回 まとめ①
 第8回 肺炎・インフルエンザ 超高齢社会において
 第9回 アレルギーは、どうしておこるのでしょうか？
 第10回 喘息はなぜおこるのでしょうか？予防と治療は？
 第11回 花粉症を何とかするには？鳥の飼い主などを襲う息苦しい病気 - 過敏性肺炎
 第12回 環境や職業によっておこる肺の病気？
 第13回 まとめ②
 第14回 予備食事による病気の予防！呼吸器疾患やアレルギーにも・・・
 第15回 活性酸素は、なぜ、悪玉なのでしょうか？
 第16回 試験

※ 予定が変更になる場合には、随時連絡します。

■ ■ 授業時間外学習情報

教科書は必要ない。毎回プリントを配布する。よく復習し、知識を確かなものにして欲しい。試験は記述式であり、プリント内容を理解していれば解答できる。

■ ■ 成績評価基準（授業評価方法）

試験にて評価する。成績評価は、S(90-100点)、A(80-89点)、B(70-79点)、C(60-69点)、D(59点以下)とし、S、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。ただし、Sは上位5%以内とする。

■ ■ 受講条件（履修資格）

全学部生

■ ■ メッセージ

肺の病気は、年齢を問わず発症し、様々なものがあります。病気の本質とその予防法を理解し、健康な生活を送れるように努めましょう。

■ ■ キーワード

肺 呼吸器 喫煙 肺がん 結核 アレルギー 喘息 睡眠時無呼吸症候群 ω3 脂肪酸 実務経験

■ ■ この授業の基礎となる科目

特になし

■ ■ 次に履修が望まれる科目

特になし

■ ■ 関連授業科目

特になし

■ ■ 教科書

■ ■ 参考書

■ ■ 教科書・参考書に関する補足情報

特になし

■ ■ コース管理システム (Moodle) へのリンク

がん予防・治療・ケア

■ ■ 時間割コード	■ ■ ナンバリング	■ ■ 科目分野
LB2437	1000LB1HS00002	
■ ■ 担当教員（ローマ字表記）		
二渡 玉江 [Futawatari Tamae]		
■ ■ 対象学生	■ ■ 対象年次	■ ■ 単位数
		2

■ ■ 授業の目的

がん予防・治療・ケアについての知識を深め、自分および身近な周囲の人の医療行動に役立てることを目的とする。

■ ■ 授業の到達目標

1. 日本・群馬におけるがん対策について概説できる。
2. がんの疫学・がん予防に必要な生活習慣を述べるができる。
3. がん3大治療である手術療法、がん薬物療法、放射線療法を概説できる。
4. 3大治療に伴うケアの方法を述べるができる。
5. がん医療におけるコミュニケーション（傾聴・共感）の方法を述べるができる。
6. がん治療における意思決定支援の必要性と方法を述べるができる。
7. 緩和ケアの概念と実際を述べるができる。
8. がん看護における家族ケアの必要性と方法を述べるができる。
9. がん看護専門職の役割と活動の実際を述べるができる。

■ ■ ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

- A：諸科学についての基礎的知識と理解 ○
 B：論理的・創造的思考力 ◎
 C：コミュニケーション能力 ○
 D：社会的倫理観・国際性 ○

■ ■ 授業概要

本科目は、医師、看護師の実務経験のある教員が、実務経験を活かして授業を行う。

がん医療の動向、がん医療をめぐる一次・二次・三次予防の意味を知る。がん発病にいたるメカニズムと主な治療を理解し、がんを予防するための生活習慣、特に喫煙問題、食事について学ぶ。また、がんの早期発見のための検診や自己チェックの方法について理解を深める。それをもとに自分自身の生活を振り返りがんを予防する生活習慣を獲得できるような動機付けとする。

さらに治療選択における患者と医師・看護者との関わり、抗がん剤・放射線を受ける患者の症状マネジメント、手術を受けた患者の身体・心理的变化を知り、がん治療におけるセルフマネジメントのあり方を考える。さらに終末期における医療を受ける場、緩和ケア・ホスピスケアについての知識を深め、がん医療・ケアについて考える。

■ ■ 授業の形式（授業方法）

講義・一部演習形式

■ ■ 授業スケジュール

No.	内容
第1回	がんの疫学、がん医療をめぐる国・県の政策について学ぶ。 10/3 二渡
第2回	がんの診断、検査データについて学ぶ。 10/10 渡邊秀
第3回	がん発病メカニズム、予防のための生活習慣について学ぶ。 10/17 二渡
第4回	がん医療に必要なコミュニケーションについて学ぶ。 10/24 二渡
第5回	がん治療、抗がん薬治療とケアについて学ぶ。 10/31 渡邊恵
第6回	がん治療、外科的治療について学ぶ。 11/7 渡邊秀
第7回	がん治療、放射線治療と有害事象について学ぶ。 11/14 久保巨輝
第8回	がん治療の意思決定について考える。 11/21 二渡
第9回	手術を受けた患者の身体・心理的变化について学ぶ。 11/28 二渡
第10回	手術後の社会復帰に向けたセルフケアについて学ぶ。 12/5 二渡
第11回	がん看護専門看護師（CNS）の役割と活動の実際を学ぶ。 12/12 角田
第12回	群馬大学医学部保健学科における市民向けがん医療・ケアの取り組みを学ぶ。 12/19 二渡

第13回	緩和ケア・ホスピスケアについて学ぶ。 1/9 金子
第14回	終末期にあるがん患者と家族のケアについて学ぶ。 1/16 京田
第15回	まとめ レポート提出 1/23 二渡

■ 授業時間外学習情報

授業時間中に課題を提示する。復習を行い、提出を提示されたものについてはレポートを作成すること。自己の考えが述べられているレポートを期待します。

■ 成績評価基準（授業評価方法）

レポート（100点）
なお、2/3以上出席しないと最終試験であるレポートを提出する権利がない。

■ 受講条件（履修資格）

特になし

■ メッセージ

積極的な質問を歓迎します。

■ キーワード

がん予防、セルフケア、治療、緩和ケア、実務経験

■ この授業の基礎となる科目

特になし

■ 次に履修が望まれる科目

特になし

■ 関連授業科目

特になし

■ 教科書

■ 参考書

■ 教科書・参考書に関する補足情報

なし

■ コース管理システム（Moodle）へのリンク

2019 年度 前期 教養教育		日英区分 : 日本語
生命保険の仕組みと活用を考える		
■ ■ 時間割コード	■ ■ ナンバリング	■ ■ 科目分野
LB1265	1000LB1IS00071	
■ ■ 担当教員 (ローマ字表記)		
杉山 学 [Sugiyama Manabu], 荒木 孝志 [Takashi Araki]		
■ ■ 対象学生	■ ■ 対象年次	■ ■ 単位数
		2

■ ■ 授業の目的

社会保障制度の仕組みや自助努力で将来に備えることの重要性を理解し、リスクを回避・抑制する手段の一つである生命保険の仕組み・役割等について学ぶことを通じて、これからの持続可能な社会を営む一員として役に立つ知識・考え方の習得を目指す。

■ ■ 授業の到達目標

社会保障制度の概要やその主な保障内容を理解し、説明することが出来る。
現代生活に潜むリスク、生命保険の意義・役割、基本的な仕組みを理解し、説明することが出来る。
大学生として、公的保障と私的保障のあるべき姿について、自分なりの考察を加えて整理し、説明することが出来る。

■ ■ ディプロマポリシーとの関連 (評価の観点)

- A : 諸科学についての基礎的知識と理解 ○
B : 論理的・創造的思考力 ○
C : コミュニケーション能力 ○
D : 社会的倫理観・国際性 ○

■ ■ 授業概要

この授業では、まず私たちを取り巻く経済環境について概観する。
その理解の上に立ち、少子高齢化社会の一層の進展により、表面化している社会保障制度の諸課題を背景に、公的保障と私的保障の多様なあり方や、私的保障 (生命保険) の意義、自助努力の必要性や有用性について理解し、考察を深めていく。
また、グループ単位で課題分析・解決策等を議論し、提言としてまとめあげるグループディスカッションも予定している。
全ての講義において、大手生命保険会社の役員・管理職等を歴任し、生命保険事業全般に深く精通した幅広い知識・経験・実績を有する講師陣が担当する。
経験談や最新の情報提供も随所に織り込み、理論と実践の両面から理解を深めていく。

■ ■ 授業の形式 (授業方法)

講義と演習 (グループディスカッション)。
演習 (グループディスカッション) は2回程度、少人数に分かれて与えられたテーマに対する解決策の議論等を行う。

■ ■ 授業スケジュール

- 1 : オリエンテーション・生保総論
- 2 : 生活設計とリスク管理①
- 3 : 生活設計とリスク管理②
- 4 : 公的保障と生保 (死亡・医療)
- 5 : 公的保障と生保 (老後・介護)
- 6 : 生保契約の仕組み
- 7 : グループディスカッション
- 8 : 生保商品の変遷・動向
- 9 : 生保に関する調査
- 10 : 生保会社の組織・業務
- 11 : 震災対応
- 12 : 金融 A D R
- 13 : 隣接業界 (少額短期保険等)
- 14 : グループディスカッション
- 15 : 総括

※受講生の理解度や履修人数によっては、内容・順番を見直す場合があります。

■ ■ 授業時間外学習情報

授業で使用した資料に基づいて一時間程度の復習を行うことが、内容理解において望ましいと考えます。

■ ■ 成績評価基準 (授業評価方法)

「授業への参加度 + (受講回によって実施) 小レポート等の内容」60%
「最終試験得点」40%で評価します。
最終試験は学期末に実施します。下記の観点から評価を行います。
・社会保障制度の概要の理解
・生命保険の意義・役割・仕組み等の理解
小レポート、グループディスカッションでは、課題に対して自分なりにどのように考察し、それを説明できているかを評価します。

■ ■ 受講条件 (履修資格)

■ ■ メッセージ

少子高齢化の進展を踏まえた社会保障制度の改革状況について、メディア等を通じて情報収集し、課題認識の向上を図ると、より講義が楽しく理解できるようになると考えます。
その上で、生活設計・生命保険について学ぶことは、それぞれの人生について考える大変有益な機会にもなると考えます。

■ ■ キーワード

公的保障と私的保障
公助と自助
生活設計
リスク管理
実務経験

■ ■ この授業の基礎となる科目

■ ■ 次に履修が望まれる科目

■ ■ 関連授業科目

■ ■ 教科書

■ ■ 参考書

■ ■ 教科書・参考書に関する補足情報

毎回の講義時に資料を配布する。

■ ■ コース管理システム (Moodle) へのリンク

2019 年度 後期 医学部 医学科		日英区分 : 日本語
病理学		
■ ■ 時間割コード	■ ■ ナンバリング	■ ■ 科目分野
MB3011	MB3PM02400	
■ ■ 担当教員 (ローマ字表記)		
小山 徹也 [Oyama Tetsunari], 横尾 英明 [Yokoe Hideaki], 佐野 孝昭 [Sano Takaaki]		
■ ■ 対象学生	■ ■ 対象年次	■ ■ 単位数
	3年次 ~ 3年次	2

■ ■ 授業の目的

様々な病気がいかなる原因で発生し、その際にどのような変化が人体内にどのような過程を経て現れるか、その結果、臓器組織細胞に形成された病変はどのような特徴をもっているかを学ぶ。病気の病態は病理学的な言葉で表現される。この授業では病理学的用語の概念を正確に理解することも目標である。病理学の講義と実習は3年次から6年次まで開講されている。よって各学年ごとに段階的に学習する形式になっている。3年生の病理学(本授業)は病理学総論という位置付けであり、次いで病理学各論を3-4年生に学ぶ。その後は医療における病理学の役割について理解してもらうことを目的に、必修ポリクリが4-5年生に、選択ポリクリが5-6年生を対象におこなわれる。また6年生の最後に専門性の高い内容を扱う実践臨床病態学講義がおこなわれる。

そうした大きな流れを踏まえて、ここでは3年生にふさわしい授業内容を設定している。アウトカムの中のB/知識の獲得と知識を応用する力を身につけることを目的とし、特に基礎的知識の獲得に加えて、病理学的知識の疾患への応用、病態の原因となる病理組織の理解へ展開する能力、態度を身につけることを目的としている。さらに学習方法、自己研鑽として、課題学習を通じ、課題を解決し、取り組む姿勢を持ち、TBL学習では、議論を行い、チーム内の同僚から助言を求めることができることを目的としている。

■ ■ 授業の到達目標

特に基礎的知識の獲得 (B1 医学の基礎となる病理学の幅広い知識を身につける。B2 病理学の知識を病因・病態の理解に活用できる) に加えて、病理学的知識の疾患への応用、病態の原因となる病理組織の理解 (B3 臨床医学の知識を有し、基礎医学の知識と関連付けて説明できる。B5 様々な領域の知を横断的に関連づけ、総合することができる。) へ展開する能力、態度を身につけ、臨床実習に関して診療を行うための基本的な知識を身につける (E5) ことを目的としている。さらに学習方法、自己研鑽として、課題学習を通じ、課題を解決し、取り組む姿勢を持つことができる (A1) TBL学習では、議論を行い、チーム内の同僚から助言を求めることができる (A4) 実習、課題学習では知識の習得に積極的に取り組むことができる (H2) 課題を解決するための方法を考え、段階的に取り組むことができる (H3) ことを身につけることを目的としている。

■ ■ ディプロマポリシーとの関連 (評価の観点)

ディプロマポリシーの中では特に

1. 医師にふさわしい倫理観と責任感を有し、医療チームの中で医師として適切な行動をとることができ、他者と信頼関係を築ける者
2. 医師、医学研究者、医学教育者又は医療行政担当者となるために必要な知識を身に付けるとともに、新たな課題にも対応できる問題解決能力を修得した者と関連している。

■ ■ 授業概要

実際に人体病理学の経験があり、病理解剖を含む病理診断の実務経験のある教官が事業を行う。すべての講義、実習、TBLはそのような病理医で行われる。本学では、病理学総論の講義、実習、自己学習を基本としている。たとえば1日の授業で、4時間の講義、2時間の実習(標本観察)とレポート課題作成などの自己学習を想定している。また特に課題に対してグ自主的にグループ学習を行う時間(TBL)を設けて、アクティブラーニングを行う授業を設定している。3回の筆記試験を設けている。病理解剖を含む病理診断の実務経験を持つ病理医の教員が、その実務経験を活かして、基礎医学、臨床医学における病理学に関する授業を行う。

■ ■ 授業の形式 (授業方法)

講義・顕微鏡(バーチャルスライド使用) 実習・自己学習の繰り返しである。また第6回の授業ではTBL(team based learning)を行う。講義ノートはmoodleにupする予定である。

■ ■ 授業スケジュール

No.	内容
	(10月23日) (担当: 小山)
第1回	午前 1, 2, 3 時限 : 炎症 1・2 (講義) 場所: 顕微鏡実習室 午後 4, 5 時限 : 炎症 1・2 (顕微鏡実習)
	(10月24日) (担当: 小山)
第2回	午前 2, 3 時限 : 炎症 3・4 (講義) 場所: 顕微鏡実習室 午後 4, 5 時限 : 炎症 3・4 (顕微鏡実習)
	(10月25日) (担当: 小山 片山)
第3回	午前 2, 3 時限 : 炎症 5・6 (講義・練習問題) 場所: 臨床中講堂 午後 4, 5 時限 : 自主実習 (顕微鏡実習室)
	(10月29日) (担当: 佐野)
第4回	午前: 2, 3 時限 : 細胞損傷と適応 1・2 (講義) 場所: 臨床中講堂 午後: 4, 5 時限 : 細胞損傷と適応 1・2 (顕微鏡実習) 場所: 顕微鏡実習室
	(10月30日) (担当: 佐野)
第5回	午前: 2, 3 時限 : 細胞損傷と適応 3・4 (講義) 場所: 臨床中講堂 午後: 4, 5 時限 : 細胞損傷と適応 3・4 (顕微鏡実習) 場所: 顕微鏡実習室
	(10月31日) (担当: 小山・佐野・越・片山)
第6回	午前: 2, 3 時限 : 炎症・組織修復 (active learning、TBLを含む) 場所 顕微鏡実習室 午後: 4, 5 時限 : 炎症・組織修復 (active learning、TBLを含む)
	(11月1日) (担当: 小山 佐野)
第7回	午後 4, 5, 6 時限: 試験 1
	(11月05日) (担当: 横尾)
第8回	午前 1, 2, 3 時限: 循環障害 1・2 (講義) 午後 4, 5, 6 時限: 自己学習
第9回	(11月06日) (担当: 横尾)

	午前 1, 2, 3時限:小テスト(8:40から)、循環障害3(講義) 午後 4, 5, 6時限:循環障害4(実習)(顕微鏡実習室)
	(11月07日)(担当:横尾)
第10回	午前 1, 2, 3時限:免疫異常(講義) 午後 4, 5, 6時限:免疫異常(実習)(顕微鏡実習室)
	(11月08日)(担当:横尾)
第11回	10:00~12:00:試験2(循環障害、免疫異常) 臨床大講堂
	(11月12日)(担当:横尾)
第12回	午前 1, 2, 3時限:腫瘍1(講義) 午後 4, 5, 6時限:自己学習
	(11月13日)(担当:横尾)
第13回	午前 1, 2, 3時限:小テスト(8:40から)、腫瘍2(講義) 午後 4, 5, 6時限:腫瘍3(講義)
	(11月14日)(担当:横尾)
第14回	午前 1, 2, 3時限:腫瘍4(実習)(顕微鏡実習室) 午後 4, 5, 6時限:腫瘍5(実習)(顕微鏡実習室)
	(11月15日)(担当:横尾)
第15回	13:00-15:00:小テスト(病理画像投影問題、持っている人はオペラグラス持参推奨) 試験3(腫瘍) アメニティ講義室

■ 授業時間外学習情報

講義期間中は課題のレポート作製が必須である。また、各単元の講義終了後にはミニテストを行うため、講義・実習後の復習も必要である。少人数グループ討論を中心とした病理学的課題を行うため、事前に配布する課題について各自で事前学習を行い、十分な準備をした上で講義・実習に望むこと。

■ 成績評価基準(授業評価方法)

以下の項目を評価・集計したうえで、GPAに基づいて成績とします。
評価項目:対応する到達目標(コンピテンシー番号):配点比率(%)
①最終試験:到達目標:E5 B1 B2 B3 B5:70%
②顕微鏡実習レポート:到達目標E5 B2 H2:10%
③ミニテスト:到達目標 E5 B1 B2 B3:10%
④課題学習、TBLでの参加・貢献度、学習態度:到達目標:B2 A1 A4 H2 H3:10%

■ 受講条件(履修資格)

2年生までに習得すべき必修科目をすべて習得していること

■ メッセージ

■ キーワード

実務経験 病理 腫瘍 炎症 組織 循環障害 細胞損傷

■ この授業の基礎となる科目

解剖学 組織学 生化学 生理学 生物学一般

■ 次に履修が望まれる科目

法医学 検査学 臨床医学

■ 関連授業科目

■ 教科書

■ 参考書

参考書1	ISBN	978-4890133536				
	書名	ルービン病理学:カラー:臨床医学への基盤				
	著者名	エマニュエル・ルービン 編,鈴木利光,中村栄男,深山正久,山川光徳,吉野正 監訳,	出版社	西村書店	出版年	2007
	備考					
参考書2	ISBN	978-4621086988				
	書名	ロピンス基礎病理学				
	著者名	Vinay Kumar, Abul K.Abbas, Jon C.Aster 原著,豊國伸哉,高橋雅英 監訳,	出版社	エルゼビア・ジャパン	出版年	2014
	備考					
参考書3	ISBN	978-4263200735				
	書名	病理組織の見方と鑑別診断				

	著者名	松原修, 真鍋俊明, 吉野正編,	出版社	医歯薬出版	出版年	2007-
	備考					
参考書4	ISBN	978-4830604768				
	書名	組織病理アトラス				
	著者名	小田義直, 坂元亨宇, 深山正久, 松野吉宏, 森永正二郎, 森谷卓也 編集,	出版社	文光堂	出版年	2015
	備考					

■ 教科書・参考書に関する補足情報

■ コース管理システム (Moodle) へのリンク

<https://mdl2.media.gunma-u.ac.jp/course/index.php?categoryid=23>

moodle 専門教育 (学部) 医学部医学科内

病理学 (病態病理学)

病理学 (病理診断学)

2019 年度 後期 医学部 医学科		日英区分：日本語
法医学		
■ ■ 時間割コード	■ ■ ナンバリング	■ ■ 科目分野
MB3012	MB3PM02500	
■ ■ 担当教員（ローマ字表記）		
小湊 慶彦 [Kominato Yoshihiko]		
■ ■ 対象学生	■ ■ 対象年次	■ ■ 単位数
	3年次～3年次	1

■ ■ 授業の目的

法医学を学習することにより、死の概念やその原因等の知識を獲得し、地域医療向上に貢献する能力の項目の一つである「保健・医療に関わる制度」の理解を目指す。法医学は法律上の問題解決に医学および自然科学の知識を応用する学問であり、死因究明が業務のひとつである。死亡は、自然死である病死とそれ以外の死である異状死に分けられ、法医学は後者である異状死を主たる対象とする分野である。一方、一般臨床医は異状死を扱う機会があり、死後診察（検案）や死亡診断書（検案書）の発行を求められる。医学教育モデル・コア・カリキュラムには死亡診断書（検案書）の作成が到達目標として記載されている。法医学の授業はこのモデルカリキュラムに沿って展開される。法医学ユニットの最終的な目標は死体検案書の作成である。その作成には法医学の知識が必要であり、それらを学習したうえで、法医学ユニットの終盤に死体検案書の作成に関する演習が設けられている。そこでは、学生自身が、それまでに得た法医学の知識を活用して、死因、死因の種類および死後経過時間等を判断し、実際の書類に記載するアクティブラーニングの形式を取っている。

■ ■ 授業の到達目標

1. 死の概念を理解する(B3)
2. 死体現象を理解する(B3)
3. 異状死体の取り扱いを理解する(F4)
4. 関連法規を理解する(F4)
5. 損傷・中毒を理解する(B3)
6. 内因性急死を理解する(B3)
7. 個人識別を理解する(B3)
8. 死因についての適切な考察から死亡診断書・死体検案書を作成できる(F4)。

■ ■ ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

医学科ディプロマポリシーの2と関連している。

■ ■ 授業概要

1.法医学総論、2.死体現象、3.窒息、4.損傷、5.中毒、6.異常環境、7.内因性急死、8.個人識別、9.死後の検査、10.検案の実際等に関しては講義を行います。また、7.内因性急死に関しては、病理組織学実習を行います。11.検案書の作成に関しては、症例を提示しますので、講義で学んだ知識を生かして、実際に検案書を作成してください。その後に学生が作成した検案書を提示し、誤りを指摘しますので、自身が作成した検案書を点検してください。

解剖資格、法医学会認定医の資格を持ち法医解剖医の実務経験を持つ教員が、その実務経験を活かして、法医解剖や死体検案書の書き方等に関する授業を行う。

■ ■ 授業の形式（授業方法）

講義、演習および実習です。

■ ■ 授業スケジュール

回数	授業日	授業題目	担当教官名
第 1 回	11月19日1時限	法医学総論	小湊慶彦
第 2 回	11月19日2時限	死体現象	小湊慶彦
第 3 回	11月19日3時限	損傷1	佐野利恵
第 4 回	11月19日4時限	中毒1	高橋遼一郎
第 5 回	11月19日5時限	異常環境	早川輝
第 6 回	11月19日6時限	中毒2	高橋遼一郎
第 7 回	11月20日1時限	内因性急死	片山彩香
第 8 回	11月20日2時限	窒息総論1	早川輝
第 9 回	11月20日3時限	損傷2	佐野利恵
第10回	11月20日4時限	窒息2	早川輝
第11回	11月20日5時限	老人虐待	佐野利恵
第12回	11月20日6時限	嬰兒殺	高橋遼一郎
第13回	11月21日1時限	死後の検査	平澤聡
第14回	11月21日2時限	検案の実際1	小湊慶彦
第15回	11月21日3時限	検案書の書き方	小湊慶彦
第16回	11月21日4・5時限	検案の実際2	田中義
第17回	11月21日6時限	予備	
第18回	11月22日2時限	遺伝・個人識別1	佐野利恵
第19回	11月22日3時限	遺伝・個人識別2	竹下治男
第20回	11月22日4時限	遺伝・個人識別3	神田芳郎
第21回	11月22日5・6時限	内因性急死2	大澤資樹
第22回	11月26日1～3時限	病理組織学実習	小湊慶彦 顕微鏡実習室
第23回	11月27日4時限	試験	小湊慶彦 アメニティ講義室

■ ■ 授業時間外学習情報

希望者には法医解剖の見学を適宜許可する。

■ ■ 成績評価基準（授業評価方法）

以下の項目を評価・集計したうえで、GPAに基づいて成績とします。

評価項目：対応する到達目標：配点比率（%）

- ① 筆記試験（多肢選択問題）：到達目標1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8：50%

- ② 筆記試験（記述問題）：到達目標8：35%
- ③ 提出課題・レポート：到達目標6,7：15%

■ 受講条件（履修資格）

医学部医学科生命医学講義Ⅳの受講者および個別に認められた者

■ メッセージ

積極的に授業に取り組む姿勢が望ましい。
多肢選択問題においては、正解率96%以上または20%以下の問題は不適切問題とし、評価から除外することがある。

■ キーワード

法医学、異状死体、死体現象、個人識別、死亡診断書・死体検案書、実務経験

■ この授業の基礎となる科目

医学全般、科学全般

■ 次に履修が望まれる科目

医学全般、科学全般

■ 関連授業科目

医学全般、科学全般

■ 教科書

教科書1	ISBN	4260138634				
	書名	標準法医学・医事法				
	著者名	上山滋太郎 監修,石津日出雄, 高津光洋 編,	出版社	医学書院	出版年	2000
	備考					

■ 参考書

参考書1	ISBN	9784307030472				
	書名	現代の法医学				
	著者名	永野耐造, 若杉長英 編集,	出版社	金原出版	出版年	1998
	備考					

■ 教科書・参考書に関する補足情報

講義および実習への携行を奨励

■ コース管理システム (Moodle) へのリンク